

## 研究室情報 2

## 平成 13 年度コンサルテーション事業報告 1—教育相談室—

熊井正之・菅井邦明

東北大学大学院教育学研究科

## 1. 障害児(者)、不登校等に関する相談

## (1) 巡回相談 (家庭訪問を含む)

平成 13 年度における巡回相談件数を表 1 に示した。障害のある子どもをもった父母を対象として施設・保健所等において実施した新規相談が 44 件、継続相談が 35 件、計 79 件あった。また教育・福祉担当者を対象として施設、保育所等において実施した新規相談が 16 件、継続相談が 10 件、計 26 件あった。そのうちの 16 件は仙台市外において実施された。仙台市内外を問わず、相談が実施されていることが分かる。

表 1 平成 13 年度の巡回相談件数

相談対象	新規	継続	計
障害児・者の父母・家族	44	35	79
障害児・者本人	0	0	0
不登校児の父母・家族	0	0	0
不登校児本人	0	0	0
教育・福祉担当者	16	10	26
その他	0	0	0
計	60	45	105

## (2) 電話相談

平成 13 年度における電話相談件数を表 2 に示した。通常の電話による相談が 11 件行われた。電話相談は仙台市内だけでなく、県外在住者との間でも実施された。昨年度実施されたテレビ電話相談は、実証実験終了のため今年度は実施されなかった。

表 2 平成 13 年度の電話相談件数

相談対象	新規	継続	計
障害児・者の父母・家族	1	10	11
障害児・者本人	0	0	0
不登校児の父母・家族	0	0	0
不登校児本人	0	0	0
教育・福祉担当者	0	0	0
その他	0	0	0
計	1	10	11

## (3) インターネットなどでの相談、情報提供

昨年度から引き続き、インターネット上で下記の情報提供を行っている。

- ①不登校・障害関連の16領域における一般的な疑問に答えるQ&A（各領域30個、合計480個）  
不登校、情緒障害、ことばの遅れ、知的障害、学習障害、こころの病、自閉症の医学、自閉症の療育、健康障害・病虚弱、ダウン症、視覚障害、聴覚障害、盲聾二重障害、重度重複障害、障害児保育、障害児教育とコンピュータ活用
- ②障害のある子どもをもったお母さんたちの文集
- ③不登校・ひきこもりに関連する物語

また、専門家の知識・カウンセリング技術をシミュレートした「コンピュータによるヴァーチャルカウンセリング」も引き続き実施してきた。このコンピュータによるヴァーチャルカウンセリングは、相談にあたる専門家の数の不足をある程度補うシステムとして、実用化が期待されている。このヴァーチャルカウンセリングは試験的に「ことばの遅れ」の領域のみで行われている。

表3 インターネットなどを利用した相談及び情報提供の月間利用数

	月	利用数*	
平成12年	4月	37297	
	5月	25185	
	6月	31659	
	7月	35511	
	8月	32410	
	9月	34169	
	10月	40132	
	11月	39123	
	12月	42691	
	平成13年	1月	56048
		2月	73003
		3月	54382
4月		50757	
5月		77601	
6月		100555	
7月		86875	
8月		82966	
9月		69470	
10月		84742	
11月		76524	
12月		67504	
平成14年	1月	70273	
	2月	73127	
合計		501610	

\*利用数の単位はページビュー（＝閲覧されたページ数）

インターネットなどを利用した相談及び情報提供は、平成 12 年度の 4 月から運用開始されたものである。運用が開始された平成 12 年 4 月から平成 14 年 2 月までの月間利用数を表 3 に示した。平成 12 年 4 月には各種の新聞、テレビで一斉に取り上げられ、社会的にも注目された。その後も時折、新聞や雑誌記事として取り上げられてきている。しかし、そうしたマスメディアで取り上げられた月だけでなく毎月平均して 3 万から 8 万ページビュー（＝閲覧されたページ数）を記録しており、コンスタントに利用されつづけていることが分かる。年度間で比較すると、平成 12 年度には毎月 3 万から 5 万ページビュー（平均すると約 4 万 1 千ページビュー）であったものが、平成 13 年度には毎月 5 万から 8 万ページビュー（平均すると約 7 万 6 千ページビュー）と、むしろ増加していることがわかる。これは、公開運用開始から時間が経過するにつれて、さらにこの相談・情報提供システムの認知度があがったことを示唆するものと考えられる。

インターネットなどを利用した相談及び情報提供の中で特に多く利用されたものの、平成 12 年度分の内訳を表 4 に、平成 13 年度分の内訳を表 5 に示した。いずれの年度においても Q&A が最

表 4 相談及び情報提供の中で特に多く利用されたものの内訳（平成 12 年度分）

	利用数*
不登校・障害に関連する 16 領域の Q&A	332723
学習障害	52677
不登校	41101
自閉症の医学	27187
情緒障害	23658
ことばの遅れ	22232
こころの病	21103
知的障害	18130
お母さんたちの文集	22870
不登校・ひきこもりに関連する物語	26593
ヴァーチャルカウンセリング	21812

\*利用数の単位はページビュー（＝閲覧されたページ数）

表 5 相談及び情報提供の中で特に多く利用されたものの内訳（平成 13 年度分）

	利用数*
不登校・障害に関連する 16 領域の Q&A	668639
学習障害	78579
自閉症の医学	66593
不登校	62953
情緒障害	56354
こころの病	48986
ことばの遅れ	44936
障害児保育	44878
お母さんたちの文集	25451
不登校・ひきこもりに関連する物語	24121
ヴァーチャルカウンセリング	24344

\*利用数の単位はページビュー（＝閲覧されたページ数）

も多く利用されており、中でも学習障害・自閉症や、不登校、こころの病、情緒障害といった社会的にも注目されている領域が特に多いことが分かる。平成 12 年度には表に示した上位リストに入っていた知的障害が外れ、代わりに障害児保育が入ってきた他は、同じ領域が上位に入っているということは、注目されている、情報ニーズの高い領域にここ 2 年間で変化がないということを示唆している。また、不登校・ひきこもりに関連する物語、お母さんたちの文集のほか、ヴァーチャルカウンセリングも活発に利用されており、こうした相談・情報のニーズの高さが示唆された。

利用数そのものを 2 年間で比較すると、不登校・ひきこもりに関連する物語、お母さんたちの文集、ヴァーチャルカウンセリングが横ばいであるのに対し、Q&A が顕著に増加していることが分かる。今後の推移が注目される場所である。